

令和5年度 第3回豊田市文化芸術振興委員会 会議録

○日時

令和6年3月27日（水） 午前10時～午後0時30分

○場所

豊田市美術館講堂

○出席者

（委員）※敬称略

- ・高北幸矢（委員長）、高橋秀治（副委員長）、藤田雅也、石黒秀和、伊丹靖夫、磯村美沙希、中佳子

（事務局）

- ・生涯活躍部 | 森市民活躍室長
- ・文化振興課 | 相田課長、太田副課長、大西担当長、志村主査
- （オブザーバー）
- ・博物館準備課 | 高橋課長
- ・美術館 | 塚田副主幹

○傍聴者

なし

○要旨

森市民活躍室長あいさつ

4月26日に豊田市博物館が開館する。今回は、博物館開館に伴う「豊田市文化芸術振興計画への事業の追加」と、前回に引き続き、学校が担っている部活動を段階的に地域に移行する「部活動の地域移行」について説明させていただく。いずれの議題も委員の皆様から忌憚ない意見を伺いたい。

議題1

豊田市博物館開館に伴う事業の追加について【資料1】

委員

- ・計画に追加することで、制限や制約がかかることがあるか。
- ・とよはくパートナー事業は、文化芸術以外の分野も含まれないか。
- ・自然体験も広い意味で捉えれば文化だと思う。文化は幅広いものなので、逆に線引きしない方がよい。自分たちがどれだけ広い懐を持っているかではないか。
- ・必ずしも入場者数だけで、評価をしないでほしい。豊田市の文化の深さをいかに測るかという視点を忘れないでほしい。
- ・博物館の事業について、基本施策1と3のみ追加しているが、2と4に含まれる

事業を検討していくと、広がっていくのではないか。

- ・量的な評価だけでなく、質的な評価も含めるとよいのではないか。アンケートで市民の意見を聞くだけでなく、例えば専門家の意見を聞く等を質的な評価に含めることも有効だと思う。事業を始める前から、こういった評価をするのかを検討しておいた方がよい。

事務局

- ・事業に制限がかかることはない。
- ・確かに、豊田の自然に関する活動をしているものもあり、すべての活動が文化芸術に関連が深いとは言い切れない。しかし、博物館は、博物館法と文化芸術基本法の精神に基づいて設置されている。今後精査は必要かもしれないが、まずは幅広い視点をもって事業を含めたいと考えている。

議題 2

部活動の地域移行について【資料 2】

委員

- ・令和 5 年度に中学校で部活の指導者をした。令和 6 年度から指導者報酬が減額になる。令和 8 年度から指導責任者、指導補助者、地域サポーターに分かれるとの事だが、報酬の面からも、専門家は求められていないのではないかと感じる。
- ・参加費無料というのが、文化・スポーツを育てることになるとは思わない。例えば、小中学校で無料の部活をやっていた子が、卒業した後に有料で習い続けるか。長期的にみて文化振興となると思えない。一定程度、負担を求めた方がよいのではないか。
- ・自分が中学生の時は、自分で楽器を買う子も多かった。今の中学生はほとんど買わない。部活の活動時間も短くなっており、中学校の部活動だけで全国大会を目指すことは難しいと感じる。

事務局

- ・文化、スポーツに触れる機会を減らしたくないという思いで部活動の地域移行の仕組みを考えている。技術の向上を優先する場合は、クラブチームという選択が多くなると思う。

委員

- ・学校の先生の指導はボランティアだったのか。

事務局

- ・わずかな手当てはあるが、ほぼボランティアといっても過言ではない。

委員

- ・ 教員養成課程のある大学で指導していたが、部活動の指導がしたくて教員を目指す学生も多い。
- ・ 中学校で8年間教員をしていた。教員によって部活動への思いには差がある。また、まったく経験の無い部活動を指導しなければならない場合もある。
- ・ 全国的に部活動の地域移行が進められているが、これだけしっかり検討し、仕組みを考えている自治体はあまりない。豊田市は、先進的な取組になると思う。
- ・ 指導謝礼について意見があったが、謝礼の額について保護者や市民に広く知らせていったらどうか。広く知らせた上で、指導者や保護者等から様々な意見を聞き、額を検討したらどうか。
- ・ 中学校の教員は、とよた地域クラブ活動の指導者となれるのか。

事務局

- ・ 勤務地の中学校ではなく、一地域住民として兼職兼業ができる仕組みにしたい。

委員

- ・ 日本の子どもの6人に1人が貧困と言われている。格差の問題がある。高い用具がいると、最初からその部活動を希望できない子どももいる。
- ・ 自分が使う用具のどこまでが自費となるのか。線引きがかなり難しいと思う。
- ・ 自分の子どもは剣道部に所属しているが、用具は譲ってもらえた。竹刀は自分で買わないといけない。
- ・ 格差をゼロにすることは難しいかとは思いますが、部活動を子どもたちが自由に選べるとよい。楽器など、どこまで市が用意できるかは難しい問題だとは思いますが、選択の間口は広くしておけるとよい。

委員

- ・ 地域に指導できる人がいないと、その部活動は開設できないのか。

事務局

- ・ 全市的な人材バンクによって、対応できるようにしたい。

以上